

## DXビジョン実現に向けて トップメッセージ

タイムス株式会社では加速するデジタル化の環境に対応していく為、予約業務、経理業務や勤怠管理などデジタル化を押し進めアナログからデジタルへ、DXで現場業務改善と残業削減などの働き方改革を達成して参りました。

更に業務の効率改善を目的として、2023年7月にiPadを管理職に配布することによりデジタル技術を活用しての業務効率改善、残業削減対策を行っています。

我々がDX推進に取り組む目的は、世の中の変化にスピーディに対応してお客様に新価値を提案し、組織やビジネスモデルを変革し続けることにより、お客様にお選びいただける組織になることです。

そこで2023年、社長直轄のDX推進プロジェクトチームを立ち上げました。CDXOには私が就任し、CIO・CTOにそれぞれ責任者を設置、各部門から人財を結集し、全社をあげてDX推進に取り組んでまいります。

今後の展望としましては、DX推進を実現するための取り組みをPhase1からPhase3に分けて設定しております。現在はPhase1に設定した取り組みを、また今後の更なるDX推進の為、Phase2の取り組みへと進めてまいります。

BPOを有効活用し、業務の質の向上、併せて社内情報や顧客情報、マニュアル等を一元化し業務の標準化を行い浮いた人員をコア業務に集中させ、競争力の強化を推し進めております。

# デジタルトランス フォーメーション戦略

当社では、既存ビジネスの変革・新たなビジネスモデルの創出により企業価値向上・差別化を目指すため、デジタルトランスフォーメーション戦略を策定しました。

下記の基本方針のとおり、プロジェクトを推進してまいります。

## DX推進における基本方針

- (1) 当社が掲げる「お客様第一主義」という目標に向かって、フロント業務はアナログで挑戦と失敗を繰り返し、成功につなげる。
- (2) バックオフィス業務は効率性を重視し、業務の最適化を徹底する。デジタイゼーションを推進し、無駄な作業を排除する。

## DX推進 基本ビジョン2024

タイムス株式会社は、経営戦略の一環としてデジタル技術の発達に伴い多様化するお客様ニーズに素早く対応し、他社との差別化を図ります。

以下の取り組みによりビジネスプロセスの最適化へ取り組み、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進を強化してまいります。

- ① レガシーシステムを廃止し、PaaS/SaaS製品を適宜組み合わせることで業務システムを実現する。
- ② 境界型ネットワーク（VPN）を廃止し、ゼロトラストネットワークによるセキュリティを実現する。
- ③ デジタイゼーションを推進し、無駄な作業を排除する。

# DX推進シナリオ

当社では、DX推進を実現するためのシナリオを公開し、3つのフェーズに分けて取り組んでまいります。

各フェーズにおいて、既存ビジネスモデルを改革し、新たなビジネスモデルを創出することにより企業価値向上を目指すために、多数のDX推進プロジェクトへ取り組んでまいります。

Phase. 1 , Phase. 2 , Phase. 3 の3段階の指標で達成状況を把握しており、現在はPhase. 1 です。

	Phase1 現在（～2024）	Phase2 中期課題（～2026）	Phase3 長期課題（～2028）
バックオフィス	<u>情報の一元化</u> 取引先情報、社内のマニュアル、各種ファイル等を一元化し、業務の標準化を目指す。	<u>データドリブン経営の実現</u> BIを活用し経営分析・売上分析を行い成果を上げる。	<u>AI/機械学習の導入</u> Chatbot等のAI技術を導入し、ITとバックオフィス業務をシームレスに連携。
環境の整備	<u>RPAツールの導入</u> RPAツールの導入によりシステム間の連携をオートメーション化を目指す。	<u>ITインフラの整備</u> 事業拡大に伴うシステムの入替え社内使用ツールの見直し	<u>基幹システム運用見直し</u> データ連携/集約/分析基盤の構築業務に適した最先端技術の活用
新サービス・ 既存ビジネス変革	<u>販売チャネルの拡大</u> BtoCのマーケティング施策として、アドネットワーク活用、SEO対策、その他販促手法開発を行う。	<u>通販事業の本格化</u> 通販事業の柱は「楽天」に加えて自社サイトでも運営を開始。	<u>ストック型ビジネスの拡大</u> ストック型ビジネスを拡大し、安定した収益を確保する。
組織変革	<u>DX推進プロジェクトチーム</u> 全社的にDX推進をリードしていくために設置。各パートで連携し、戦略を立案・実現する。	<u>DX人材の育成・標準化</u> 専門チームの人材だけでなく全社員がDX人材として活躍できる組織を作る。	<u>SXを実現する</u> デジタル技術を用い業務改革を起こし、持続可能性を重視した経営を実現する。

## DX推進プロジェクト

タイムス株式会社では、既存ビジネスの深化・デジタル技術活用環境の整備を1つの戦略的な柱とし、以下のDX推進プロジェクトへ取り組んでまいります。

### 【既存ビジネスモデルの深化】

- ・ アドネットワーク運用活用による販売チャネルの拡大
- ・ BIツール活用による新価値の創出、需要予測
- ・ DXによるCX（顧客体験価値）向上

### 【デジタル技術活用環境の整備】

- ・ レガシーシステムの廃止、Paasへの移行。
- ・ DXに求められるマインドセット・企業文化の構築

## 達成状況を計る指標

- ・DX推進シナリオについて：Phase.1, Phase.2, Phase.3の3段階の指標で達成状況を把握しており、現在はPhase.1である。

- ・DX推進プロジェクトについて：

### ①達成状況の指標

#### DX 推進プロジェクト達成状況をはかる指標

##### <既存ビジネスモデルの深化>

既存事業の売上金額を指標とする。46期（2028年8月～2029年7月）既存事業売上目標：22億円

##### <デジタル技術活用環境整備>

残業時間削減を指標とする。46期（2028年8月～2029年7月）期中平均年間残業時間目標：250時間

### ②指標達成の為の具体的な手段

##### <既存ビジネスモデルの深化>

- ・BtoCのマーケティング施策として、アドネットワーク活用、SEO対策、その他販促手法開発を行い販売チャネルの拡大を行う。

##### <デジタル技術活用環境整備>

- ・バックオフィス業務の効率化の為GoogleWorkspaceを用いて社内のシステムを統一、RPAを活用しシステム間の連携を行う。

## 基本ルール

- PCファーストからモバイルファーストへ
- バックオフィス業務は「デジタイゼーション」で効率化を図る。
- BIツールを活用したデータドリブン経営の推進
- リカレント教育によるDX人材の育成
- ファイルのクラウド管理
- 各プロダクトの「アドネットワーク運用」

## DX推進体制

当社は2023年7月1日付でDXの推進を強化するため、社長直轄のDXプロジェクトチームを新設しました。各部門から人材を結集し、全社でのDX推進に取り組んでまいります。

